消防学校だより

令和8年１・２月号

発行年月日　令和８年２月２７日
発　　行　宮崎県消防学校

火災調査科（入校）

１月１９日（月）から１月３０日（金）までの２週間で、火災調査科を実施しました。

研修には県内１０の消防局、消防本部から１３名が入校し、火災調査書類の作成、火災調査関係法規、鑑定など火災調査に関する専門的なカリキュラムを実施しました。

今回の研修で学んだ知識と技術を生かし、火災原因調査の精度を向上させます。

火災調査科（現場見分、質問調書、原因判定、調査書類の概要、作成要領）

１月１９日(月)、２０日（火）で宮崎市消防局から長谷川　裕一係長、別府　倫和主幹を招き、火災調査時の現場見分、質問調書、原因判定書の作成要領について講義を受けました。調査書類は、その火災の事実を証明する唯一無二な書類です。記載内容の不備は、調査結果の信頼を揺るがすだけでなく、司法判断や損害賠償にも大きな影響を及ぼします。「一行の重み」を意識して作成に取り組んでください。

火災調査科（原因調査の項目、手段、範囲）

１月２０日(火)、都城市消防局から藤村　修平副主幹を招き、機器の使用立証のための講義と実習を行いました。

ストーブ、ガステーブルを分解した後、再度組み立てを行い、構造、作動原理、安全装置の原理を理解したうえで、焼損したガステーブルを見分し、原因を特定するための要領を学びました。

火災調査科（焼き判断基礎知識、出火箇所・判断の見聞）

１月２１日(水)、都城市消防局から吉井　剛主幹を招き、電気火災や微少火源に関する講義と実験を行いました。様々な原因を再現し、目で見ることにより効果の高い講義となりました。

火災調査科　特別研修　（火災調査の進め方・要領・鑑識方法）

１月２２日（木）、総務省消防庁　消防大学校から西村　太作助教授を講師に招き、火災調査の進め方及び要領等について講義していただきました。

火災調査については、消防法第31条に、「消防長又は消防署長は、消火活動をなすとともに火災の原因調査並びに火災及び消火のために受けた損害の調査に着手しなければならない」と明記してあり、消防の義務である事を十分に理解し、それに基づく権限や協力を得ながら、火災原因の迅速化と救命率を向上し、住民生活の安心安全の確保に努めなければならない。また、「調査」は二度とやり直しが出来ないため、火災調査の手順や基本的な留意事項を十分に理解しておくことが大切である等を話されました。

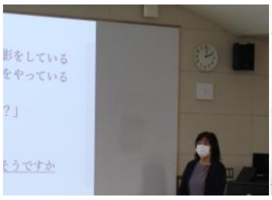
火災調査科　（車両構造と出火原因について）

１月２６日（月）、株式会社　日産サティオ宮崎から、工場長の甲斐　隆嗣氏とメカニックの長友　勝氏を招き、電気自動車の「車両構造と出火構造」について講義していただきました。

実際に実車観察を通じ、EVは床下のリチウムイオンバッテリーとモーターを核とするシンプルな構造である一方、衝撃等による短絡から生じる熱暴走が出火のメカニズムとなることや、その対策としての自動遮断システムおよび大量の水を用いた冷却消火の重要性を学びました。

火災調査科

１月２６日（月）、And Ray 代表の滝　玲子氏を講師に招き、「質問で不快にさせない、齟齬が生じない方法」と題して、火災調査時に、質問や回答で見解の違いが生じないよう相手方に対する話し方について学びました。



火災調査科（写真撮影基礎）

１月２７日（火）、宮崎第一中学高等学校から廣野朋子教諭を講師に招き、写真撮影の基礎を学びました。現場に於ける記録の多くはカメラによってされるため、カメラの基礎的な知識や撮影方法について講義していただきました。

火災調査科（鑑定）

１月２８日（水）、県警科学捜査研究所にて工学鑑定官の方から火災調査について講義を受けました。

様々な燃焼機器（ガスコンロ等）の構造を学んだ後、鑑識用石油検知管の実習を行い、鑑定の概念や見分要領を学びました。

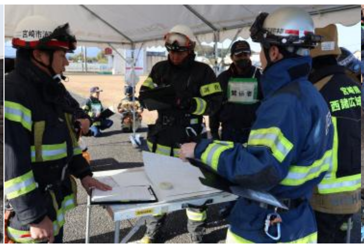
また、分電盤、配線を作成し短絡痕の確認を行いました。電気配線類は、絶縁被覆といって電気を通しにくい塩化ビニールやゴムなどを巻いて中の導線同士が接触しショートするのを防止した構造になっています。ところが被覆が損傷し熱により焼失した場合、導線同士が接触してしまいショートが発生し、その部分に球形の痕ができます。この現象は、火災の原因ともなり通電していた立証ともなります。

火災調査科（シミュレーション）

　各班が現場を造り、その現場に対し、他方の班が、覚知、現着から鎮火までの一連の消防活動を行うとともに、研修で学んだ調査手順で火災原因調査を行いました。
　最終日の火災調査発表にて、想定を受けた調査実施班が調査結果を報告し、想定提示班の回答とともに検証を行い、各学生の調査技術向上を図りました。

事案作成（B 班）

調査（A 班）



事案作成（A 班）

調査（B 班）

火災調査科は１月３０日（金）、全てのカリキュラムを修了しました。

警防・特殊災害科　入校

　２月３日（火）から２月２０日（金）で、第３４期警防・特殊災害科研修を実施しました。
　本研修には、県内消防（局）本部から１３名の学生が入校し、複雑多様化する現代の災害現場において、より高度な判断力と技術を要する「警防活動」および「特殊災害活動」への対応力を強化する事を目的に専門的教育訓練を実施しました。

警防・特殊災害科（宮崎県における地震発生のメカニズム）

　２月４日(水)、宮崎公立大学人文学部国際文化学科兼地域連携・防災研究センター　山下　裕亮准教授から「地震・津波から命を守るための基礎知識」と題して、本県における地震発生のメカニズムについて講義していただきました。講義では、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された際、消防の取るべき対応などグループワークを交え進められました。
　受講生は、「消防業務」と「臨時情報対応」両立をどうするかなど、危機への対応を真剣に議論しました。

警防・特殊災害科　BC 災害対応訓練

　２月５日（木）、宮崎市南消防署にて仁田脇　健司令補から NBC 災害対応について講義していただきました。座学にて NBC 災害の特性や過去の事例を学んだのち、実戦的なステップとして塩素ガス漏洩を想定した机上シミュレーション訓練を実施しました。この訓練を通じ、有事の際における迅速かつ適切な衝動対応への理解をより一層深めることができました。

警防・特殊災害科（鉄道関連災害）

２月９日（月)、JR 九州宮崎支社の小森　喬課長を招き、鉄道関連の災害をテーマとして講義をおこなっていただきました。

講義の冒頭では、JR 九州における安全の根幹をなす安全運転規範の在り方についてお話しいただきました。

その後、過去に発生した鉄道に関連する重大災害の事例を振り返り、それらの苦い経験を教訓として現在進められている安全への取り組みや、迅速な緊急時対応の体制について具体的な解説をしてくださいました。

警防・特殊災害科（特別研修）

２月１２日(木)、消防大学校から西山　真二助教授を講師に招き、「火災救助活動時における安全管理」についての講義を実施しました。

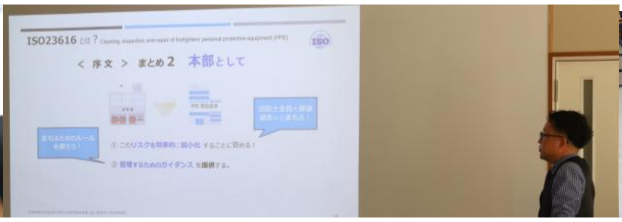
本講義は三章構成で安全管理を多角的に掘り下げる内容となっており、第１章では、災害現場における安全管理の体系的な理論を学習し、第２章ではヒューマンエラーなど心理的観点から現場で安全を完遂する手法を考察、そして第３章では過去の受傷・殉職事例に基づいた教訓を習得しました。

このように、理論・心理・事例の三面から安全管理について深く学んだことは、現場の事故防止と安全確保の重要性を改めて再認識する上で極めて有意義な研修となりました。

警防・特殊災害科（消防隊員用個人防火装備について）

２月１２日（木)、株式会社　服部商店から、堀江　潤氏、日髙　直弥氏を招き、消防隊員用個人防火装備について講義していただきました。

安全な消火活動のためにメーカーが貢献・寄与できる情報の共有ということで、防火服の進化や性能、メンテナンス等を含め幅広く話していただきました。



警防・特殊災害科（航空機火災）

２月１６日（月)、大阪航空局宮崎空港事務所の財津航空保安防災官から「空港消防の位置付け」、航空保安協会宮崎第一事務所下村主任から「航空機火災対応」、株式会社日米商会航空部　谷口支配人から「航空機燃料の危険性」、日本航空株式会社エンジニアリング　遠藤マネージャーから「航空機機体構造」の講義を受けた後、航空消防隊の使用する車両を視察しました。普段見ないA―1級のポンプを積んだ消防車など、市町村消防の車両との違いを間近に見る事ができました。

警防・特殊災害科（校外研修）

２月１７日（火）および１８日（水）の２日間にわたり、佐賀県消防学校の AFT 施設（実火災訓練施設）を借用して実施した訓練では、実戦に即した環境下で極めて有意義な成果が得られました。

１日目は火災性状の確認として、コンテナハウス内において火災進展に伴う天井ジェットや、ロールオーバーなどの燃焼現象を克明に確認することができました。あわせて、注水による熱成層の崩壊が隊員に及ぼす受傷のリスクを体験的に学び、過酷な環境下での安全確保の重要性を再認識できました。

２日目は AFT 施設で１日目の知見を踏まえた注水訓練や、濃煙・熱気環境での検索訓練を行いました。

今回の訓練を通じて、火災特有の現象を安全かつ詳細に観察することができ、学生の技術向上と危機管理意識の強化に繋がりました。

警防・特殊災害科は２月２０日（金）、全てのカリキュラムを修了しました。

自衛消防隊員研修

２月２５日（水）、２６日（木）、２７日（金）の３日間で、自衛消防隊員研修を実施しました。

研修生は、自衛消防隊員の活動と役割を学ぶと共に、応急手当や心肺蘇生法、通報訓練並びに初期消火訓練、起震車体験等を行い、各事業所での火災時の初期対応について訓練しました。

１次

２次

３次

AED 取扱い心肺蘇生法

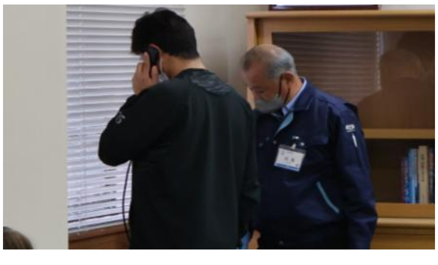
搬送法

起震車体験

消火器取扱い訓練

屋内消火栓訓練

119 通報訓練



３月の主な行事

●第６５期初級幹部科	３月　２日（月）～　３月１３日（金）
●消防団幹部科（現場指揮過程）	３月　４日（水）・　５日（木）
	３月　７日（土）・　８日（日）
	３月１１日（水）・１２日（木）
	３月１４日（土）・１５日（日）
●女子寮落成式	３月１８日（水）
●女性職員活躍推進コース	３月１８日（水）・１９日（木）